

令和2年度 いなさ会総会・懇親会は 中止いたします

例年、8月13日に開催しております「いなさ会総会・懇親会」につきまして、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、皆様の安全を第一に考慮しました結果、開催を中止させていただくことに決定いたしました。参加をご検討いただいていた皆様にはご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳ございませんが何とぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

編集・発行
島根県立大社高等学校内
いなさ会事務局
電話 (0853) 535039番
郵便振替口座 01310-5-18808

若者たち

いなさ会会長

北島 建孝たけのり



令和二年五月の連休中に書いていますので、そぐわないこともあるかもしれませんが、お許しくください。本紙がお手元に届く頃には、良い意味で「あの時は…」と振り返ることができるようになっていると良いと思います。

大変な年になりました。ほぼ全ての集りは中止となり、外出をすることさえ憚られるようになりしました。いなさ会総会も已む無く今年中止することになりました。残念ですがどうかご理解ください。

季節は春から初夏へと移る良い季節です。樹々は新緑に包まれ、鳥の声も長閑に響き渡ります。出雲大社の周辺も人影は少なく寂しい限りです。神門通りの殆どのお店は閉められ、町内外の人は「こんな風景見たことが無い」と口々に言います。高校総体も中止されました。

夏の甲子園もどうなるか分かりません。母校の授業も未だ再開されておらず、通う生徒たちの気持ちも思うと、仕方ないといえ不憫です。いずれは終息する時が来るでしょうが、その時期が判らないだけに閉塞感、不安感は解消されません。

話は変わりますが、最近の若者達には驚かされます。価値観の違い、怪しげでよく分からない言葉使い。スマホの使い方も等々。私は付いていけないと感じることが多々あります。しかし、それ以上に私が驚かされていることは、自分でしっかりと考え、そして行動に移していく、そんな気力に満ちた若者が多くいるということ。例えば、

スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさん。環境問題を大人に訴えかけ世界中の多くの若者を動かしています。大阪では高校生が、新型コロナウイルスで学校教育界が大きく揺れている現在、九月入学への切り替えを訴え二万人を超える署名を集めています。また、人々に少なからず影響を与えている者もいます。白血病で闘病中の水泳競技選手池江璃花子さん（十九歳）は復活を目指し努力していますし、我がいなさ会会員の里見香奈さんは、地方の女子でも厳しい世界に挑戦し輝かしい成績を挙げ、女流棋士界のみならず、将棋の世界に大きく貢献している姿などはいると思えます。

改めて振り返ってみると、いつも時代を動かしている若い力があることに気が付きます。明治の時代に大きく影響を与えた吉田松陰が亡くなったのは二十九歳でした。

実は世の中に新しい風を吹き込んでいるのは、有名無名は関係なく、何時でもこうした気概を持った若者達ではないでしょうか。そしてその時代の若者達が彼らの感性を支えているのではないのでしょうか。彼らが持っているエネルギー、考え方が世の中を方向づけているというのは言い過ぎでしょうか。

今は国難とも言わなければならない時です。明るい将来がいつ来るかも分かりません。でも竹内まりやさんが「過去を悔やんでも変わらないし、未来を憂えてもしょうがない」と仰っているように、このような時期に拘わらず、今を大切に生きていきたいと思えます。

会員のみなさまにはどうかご自愛なされ、ご清祥でありますことを心からお祈りします。



今を受け入れ 今を越える

第43代 校長

古居 晃あきら

いなさ会の会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染症のため、様々な制約の中での生活をされていることと思います。この原稿を書いている段階では、三十九の県で緊急事態宣言は解除されました。解除されたとはいえ、まだまだ予断を許しません。この「会報」がお手元に届

く頃には全ての都道府県で解除され、そして、わずかずつでも元の暮らしに戻っていることを願っています。

皆様の母校である大社高校も、この影響で四月二十日から長期の臨時休校を強いられましたが、五月二十五日から再開いたしました。それでも、感染防止に努めながらの生活です。全員がマスクを着けていますので、子供たちの表情は見えません。また、飛沫防止から大声も自粛ですし、ソーシャルディスタンスも求められています。早く元の大社高校らしい活気溢れた学園生活を送らせてあげたいとつくづく思う今日この頃です。

この感染症により全ての国民に我慢が強いられましたので、致し方ないことはいえ、本当に生徒たちのことを思うと胸が痛みます。多くの部活動で各種大会やコンクールが中止となりました。本校では、勉強と部活動は一体となったものと捉える「文武不岐」の精神で教育活動を進めています。多くの生徒が社高で部活動に取り組みもうと思いついてきていっていると思います。もちろん、大会やコンクールの成績が全てではありませんが、一所懸命取り組んだことを発表する機会すらないというのは、かわいそうでなりません。しかしながら、現実を受け入れることも次のステップに進むためには必要です。「今を受け入れ今を越える」これからが正念場です。

終わりに、幾つかの支部総会、そして八月の総会も中止となりました。残念ですが、また皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

令和2年度 いなさかい いなさかゐ総会

令和2年度 いなさかゐ総会・懇親会の中止に関連して

すでにホームページへの掲載、各支部長・事務局長への連絡等でご承知のとおり、例年八月十三日に開催しております「いなさかゐ総会・懇親会」を中止いたします。これは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためであり、六月中旬の「いなさかゐ幹事会」も中止いたしました。

- このことに関連して、四月十一日(土)のいなさかゐ周年期引継ぎと四月二十四日(金)のいなさかゐ正副会長会議で協議した結果、以下のとおりとなりましたのでお知らせいたします。
- ① 令和3年度いなさかゐ総会
午前、有朋館二階で開催する。
 - ② 記念講演は高校33期が担当し、講師も高校33期から選ぶ。
 - ③ 令和3年度いなさかゐ懇親会
令和三年八月十三日(金)午後、島根ワイナリーで開催する。
 - ④ 懇親会の幹事は、高校42期と高校43期が合同で行う。
 - ⑤ 令和2年度周年期(高校32期・42期・52期)の寄付金
高校32期は、令和2年度に納める。

高校32期

(鹿城丘校舎最後の卒業生の皆様への皆様へ)

令和二年八月十三日(木)に向けて、幹事の大国博史氏、神田(児玉)雅志氏、長廻崇氏の三名が中心となり、京都大学防災研究所教授の多々納裕一氏に記念講演をお願いしていました。しかし、いなさかゐ総会が中止になったので、記念講演も行えずとても残念です。



講演を予定していた多々納裕一教授(京都大学)

また、当日の夕方から十年ぶりに高校32期の同窓会を計画し



人文字は高校32期がつとめました

案内するつもりでしたが、こちらも実施できなくなりました。来年、高校33期・42期・43期の皆様へメールを送る意味で、令和三年八月十三日(金)午前の総会や、午後の懇親会に多くの高校32期の皆様参加されることを期待します。そして、今年できなかった同窓会を再度計画し案内しますので、楽しみにしてください。

なお、今回の周年期の寄付金については、十年前の周年期で集めた残金から支出しましたので、ご報告いたします。

杉谷幸夫(大社高校教諭)

令和元年度 いなさかゐ総会及び懇親会報告

令和元年度総会は八月十三日(火)に有朋館大研修室で例年どおり開催されました。初めに北島会長より昨年の本校創立百二十周年にちなみ本会の歴史について、発足が明治三十二年(一八九九)年の「七生会」という名の校友会で、昭和十六年に「菊水会」、戦後の二十三年に「いなさかゐ」と改称され、二十五年に女学校の卒業生会「白鳥会」と合併して今日に至っているとの興味深いご紹介がありました。続いて四月に赴任された古居晃校長より新任のご挨拶があつて抱負を述べられ、本校の現況や県高校総体三連覇と完全優勝(男子総合、女子総合、男女総合の全ての優勝)の達成などについてのお話がありました。

恒例となっている記念品贈呈は、四十周年の高校31期、三十周年の高校41期、二十周年の高校51期、それぞれの代表者によって行われ、ご挨拶があつて、会長から謝辞が述べられました。

記念講演は「北の大地からこの国を思う〜私を育ててくれたふるさと出雲〜」と題し、高校31期の坂根厚司氏により行われました。氏は西神西町の出身で畜産家になる夢をもって帯広畜産大学に入学・卒業されましたが、就職先でコンピュータ関係の仕事に任されたのがきっかけでその専門家となり、一九九四年のバブル崩壊を機に㈱ナスカコンピュータを札幌に設立して経営者として活躍中という異色の経歴をもった方です。出席された恩師廣澤將城先生のご紹介があり、高校時代の思い出や、社員にやさしい会社にするという経営理念、離れて分かる「出雲人気質」の有難さ、恩は頂いたもので返すものではないなどなど、楽しく有意義なお話満載の講演でした。

午後一時から会場を島根ワイナリーに移して懇親会が開催されました。このたびは卒業三十年の高校41期の皆様心の中もったお世話をされ、三〇〇名近い参加者で盛り上がりました。

●いなさかゐホームページ
大社高校のホームページの中にいなさかゐのページがあり、各種ご報告や案内をしていますのでご覧ください。アドレスは <http://www.taishaed.jp/> です。
支部総会、同期会などのご案内もしています。いなさかゐ事務局までメールでご連絡ください。 taisha-inasaka@goemnet.ne.jp です。

●住所変更
本紙を正確にお届けするため、住所等に変更がございましたら左記までがきにてご連絡いただきますようお願いいたします。
〒699-0722
出雲市大社町北荒木1473
大社高校いなさかゐ事務局



高校32期へ引き継がれた校旗

ご案内

周年記念に 寄せて

卒業40周年

32期生 安部 啓一

人生の スタートライン

僕は旧姓は福代で、今は安部です。今年卒業してから四十年になりました。

僕の実家は大社町の神門通りで二代続いていた「大福」と言う蕎麦屋でした。僕が高校を卒業してから直ぐに母が他界して閉めました。

社会人となった後も実家の蕎麦の味が忘れられずに、趣味で時々そば打ちをしたり、蕎麦の食べ歩きで色々な店を訪ねていました。

四十八歳の時に、懇意にして貰っていたそば屋さんから店長をしないかと声を掛けて貰いました。



安部(福代)啓一氏

そして今年そば屋になって丁度十年になります。人生にはいくつもの岐路があります。僕は社高を選択する前に出工の建築科を希望していました。願書締め切り前夜、担任の勧めで社高に変更しました。在学中は漠然と過ごしていましたが、進学先も就職先も目標を見失っていた自分がいました。流されるままに高校卒業後就職した訳ですが、いつかは閉めたいと実家の蕎麦屋を再開したいとの思いはずっと持っていました。誰しも夢はあると思います。いつかいつかと思いつつ、チャンスは待っていると思いつつ、でも、大きな目を開いて探していても見つけれずには過ぎて行きます。チャンスは案外、自分の前髪にぶら下がっているのかも知れません。これを書いて今、世界がコロナウイルスで大変な時ですが、いつか必ず終息する日が来ます。昇らない陽はありませぬ。それまで、命を大切にお互いを思いやってみよう。それでは、松江の松本蕎麦店(ステイックビル内)であなただけのお越しをお待ちして居ります。

卒業30周年

42期生 三原 康一

浜山球場の思い出

先日、母校を右手に見ながら浜山公園へ向かうと、立派に改修された野球場が目飛び込んできました。

かつてはプロ野球のオープン戦も開催された浜山球場は、自分自身も、そして息子達も野球に関わっていた縁もあり、あれこれ懐かしい記憶がよみがえります。

在学当時、応援団に所属していた私は毎試合スタンドから声援を送っていました。残念ながらその年は合衆選手権する江の川高校に屈し、あと一歩のところまで甲子園への切符を手にすることはできませんでした。



改修された浜山球場

今でも鮮明に記憶に残るのは

それから四年後、一九九二年の決勝戦、相手先頭打者の初球ホームランに始まり、いきなり三点のリードを許す苦しい試合展開でしたが、その後の粘り強い守りと八回裏の見事な逆転劇で宿敵江の川高校を破り、八回

卒業20周年

52期生 永田 泰教

感謝

大社高校を卒業して二十年、高校生活で一番に思い出するのは、サッカー部での三年間です。祝部先生、高橋奨先生、影山先生からの愛情あふれる指導は、時に厳しく、当時は反動的に考えることもありました。しかし、二十年経った今ではまさしく金言であり、納得できることばかりで、思い出すと涙腺が緩くなり、本当に感謝の思いしかありません。インターハイ県予選決勝、選手権県予選決勝の湘南戦の敗北は時々夢にでています。あの時、もともと自分が努力できていれば、ひとつひとつの練習をもっと大事にできていれば、

今でも、サッカー部の同級生とは定期的に集まっています。試合の話、先輩に叱られた話、喧嘩して二年間口を利かなかつた話、恋愛の話など毎回登場する同じ話題や、近況報告等々をしています。四年前には生徒会長であった金本聡君を中心に同窓会を企画したところ、先生も含め多数参加頂き、学生時代話したことがなかった同級生と色々な話をすることができ、開催前の不安とは裏腹にとっても楽しく、素晴らしい時間でした。ですので、二十周年記念の同窓会の時期がくるのをとても楽しみにしておりました。しかしながら新

目の甲子園出場を決めました。

満塁からの鮮やかな逆転タイムリー、最後の打者を一塁ゴロに打ち取りマウンド付近で折り重なる選手達、八年ぶりの優勝に熱狂する一塁側スタンド、その日スタンドから応援していた自分にとって、どれも忘れることのできない景色ばかりです。あれから四半世紀、何度も跳ね返されたあと一歩の壁。「今年こそは」と毎年楽しみにしていますが、残念ながらなかなか吉報は届きません。

今年新型コロナウイルス感染症の影響で春の選抜、夏の選手権ともに中止となりましたが、一日も早くかつての平穏な日常が戻り、古豪復活、雲に入るヒット、海を越すライナーを放ち、いつの日か社高健児の野球団が甲子園で躍動する日を楽しみに、後輩諸君の健闘を祈ります。

ロナウイルス感染症拡大という世界の危機的状況の中で、同窓会を今年度開催することは難しい状況です。ただ、このまま中止というのは寂しく、なんとか今の状況を乗り越え、延期という形で同窓会を開催できることを願っています。



同窓会の写真 (2016年1月)

協賛金のお礼とお願い

例年協賛金をお送りいただき、まことにありがとうございます。

皆様のお志に厚くお礼申し上げます。

本会報は皆様方からお寄せいただいている協賛金のみを運営の資金と致しております。しかし、年々協賛金が減少しており、大変厳しい状況にあります。

さらに、一昨年まで大きめの角3封筒で送付されていただいておりましたが、少しでも費用を抑えたいと、郵便定形サイズの長3封筒で送付させていただくことに致しました。

本会の発展に寄与する本紙発行に、益々のご理解とご協力をお願い申し上げます。

郵便振替用紙を同封致しておりますので、一口千円から協賛金をお払い込みくださるようお願い申し上げます。

寄付金の御礼

「令和元年度いなさかい周年記念寄付金」につきまして、高校31・41・51期の皆様より多額のご寄付を賜りました。厚くお礼申し上げます。

寄付金は有朋館の管理費、弓道場敷地費用等に有効に使わせていただきます。

母校のため、快くご寄付いただきました皆様様に心より感謝申し上げます。

支部だより



東京いなさ会

会長 岩成進吉
(高校26期)

第六十三回(令和元年度)東京いなさ会総会は令和元年十一月九日(土)に千代田区神田神保町の学士会館にて開催しました。総会には、北島建孝いなさ会会長(高校29期)、古居晃校長、柳楽達也先生(高校35期)に参加していただきました。北島会



令和元年の東京いなさ会総会は約70名の参加でした。

長から、町の様子や本部いなさ会の状況を、古居校長には母校の学業、進学等の状況、各クラブ活動の様子などのご報告をいただきました。今回の講演は岡田猛さん(高校30期)に「創造的教養のすゝめ…芸術の心理学の知見から」のテーマで講演していただきました。岡田猛さんは母校を一九七八年に卒業され、現在東京大学大学院教育学研究科教授として活躍中です。懇親会では初参加者に自己紹介をお願いし、還暦を迎えられた方に粗品を贈呈しお祝いとしました。終盤では恒例の歴代の校歌、応援歌を合唱し盛会のうちに閉会しました。

令和二年の東京いなさ会総会は下記での開催を予定しています。

●日時・十月二十四日(土) 十一時

●場所・学士会館(東京都千代田区神田神保町) 同級生、知人をお誘いあわせのうえ、多数の参加をお待ちしています。

●連絡先 事務局 安達久文(高校30期) 電話(〇四六七)三三一 四一一六

中部いなさ会

会長 草谷八郎
(高校13期)

第四十九回中部いなさ会総会は、ご来賓に和田節子いなさ会副会長、母校からは古居晃校長、杉谷幸夫先生にご出席いただき、開催しました。

遷宮後の賑わいが続く町の様子、後輩の活躍ぶりを、皆さん目を細めて拝聴しました。総会では、先日來、飯島会長が体調を崩され欠席されたため、急遽、瀧川顧問に会長代行をお願いしました。懇親会はいつもと変わらず、なごやかな、出雲弁が飛び交う中、杉谷先生、糸賀さんの音頭で、校歌、応援歌

を熱唱、「フレンドリー大社」でエールを送りました。後日、幹事の皆様の後押しを受け、本年度より大役を引き受けることになりました。事務局も北島清博君(高21期)にお願いし、「いなさ会会報誌」の支部だよりを参考に、年々減少してきた、出席者数を一名でも増やしていきたいと思っています。本年度の総会につきましては、コロナウイルス感染拡大を避けるため、幹事も自粛している状態ですが、時期をずらし開催したく会場を仮押さえしました。夏の終わり頃には決められると思います。沢山の方のご参加をお待ちしております。

●日時 十一月七日(土) 午前十一時三十分より

近畿いなさ会

会長 大隅弘道
(高校14期)

第九十三回近畿いなさ会は初めて参加の小川副会長、古居校長、常連の大島先生をお迎えし更に東京の岩成会長、広島の内藤会長、岸幹事長、京滋の別所会長にも参席して頂き総勢八十九名参加で盛大に開催をいたしました。

今年の講演はスポーツ評論家の山本浩様にお願いたしまして「世界が育てるオリンピック」を題し、ドイツ在住経験から外国人の人間性から見た選手の育成等を中心に面白いお話を伺いました。前回は女流棋士の里見香奈さ



小川副会長、山本講師を囲んで

んが出席してくれて大いに盛り上がりました。今年も参加依頼をしておりましたが、対局と重なり残念ながら欠席となりました。次回の楽しみにしたいと思います。

●場所 ホテルプラ王山
●連絡先 事務局 北島清博 (高21期) 電話(〇五二) 七二一―二二六五



第49回中部いなさ会総会にて

第三十九回京滋いなさ会を昨年四月十四日に、北島建孝いなさ会会長、母校の若林牧彦教頭、杉谷幸夫先生をお迎えし、京都ガーデンパレスで開催しました。例年の出席者に加え、学生二名、院生二名の出席がありました。正司光男様の乾杯音頭後、食事、来賓ご挨拶、歓談と続きました。北島様は、大社での神在祭が大変賑わっていた様子を話されました。若林様、杉谷様は、母校創立百二十周年記念式典の様子や進路状況と野球部の秋季県大会優勝等を報告されました。

京滋いなさ会

会長 別所親房
(高校15期)



第39回京滋いなさ会総会にて

歓談後、出席者全員が、制限時間二分以内で自己紹介・近況報告をして場が和み、最後に全員で校歌と応援歌を歌って盛り上がり、記念撮影をして終わりました。

米子いなさ会

会長 石部裕一
(高校13期)

第五十八回支部総会と懇親会を開催した。米子いなさ会石部裕一会長といなさ会北島建孝会長の挨拶、長廻崇教頭の母校の近況報告に続き、総会議事に入った。会務報告、決算報告を承認、秋の親睦旅行の原案を検討したのち今年は会場の時間的制約のため、恒例の講演を行わず会員同士の交流を目的として懇談会を行った。近況報告や懐かしい大社の話題に花が咲き、三校歌と応援歌を放歌高吟して、岩石会員の「フレフレ大社」のメールで締めとなった。



「奥大山紅葉満喫ツアー」令和元年11月10日
鳥取県日野郡江府町「サントリー天然水奥大山ブナの森工場」にて

CM撮影現場木谷沢溪流と鍵掛峠では息をのむ景観を堪能した。御机の茅葺小屋周辺はカメラマンの写真スポット。きつと良い写真がとれたと思う。

大社高校を卒業し米子近辺でお住まいの方来てみませんか。
●連絡先 石部裕一(高校13期)
ishibe@chukaine.jp 又は
090-18245-0231
又は LINEグループ「米子いなさ会」

県庁いなさ会

会長 馬庭正人
(高校31期)

令和元年度県庁いなさ会総会、懇親会は、十一月十二日(火)に松江ニューアーバンホテルで、来賓として、いなさ会桑本副会長、母校の古居校長、大島先生のご臨席を賜り、三十四名の出席のもと盛大に開催いたしました。懇親会では、母校の近況報告を受けた後、恒例のクイズ大会「令和元年度いなさ会検定試験」を行い、大社にまつわる知識を競いました。

最後に、高校36期大谷応援団長の号令のもと、出席者全員で校歌・応援歌を合唱し、大いに盛り上がりました。

県庁いなさ会は、本庁、地方機関を問わず、県政に携わっている職員が、大社高校という母校を絆に旧交を温めるとともに、情報交換のできる貴重な場として歴史を積み重ねてきました。年一回の総会ではありますが、先輩、後輩が、世代の違いを超えて集まることのできる、大変有意義な機会となっております。

松江いなさ会

会長 江口博晴
(高校10期)

思ってもみなかったコロナ禍に見舞われ、総会は十月十八日十六時からサンラポーむらくもで開催することになりました。会報発行は八月下旬の予定です。一日も早い終息を願うのみです。

●連絡先 事務局 神田 貢
(高校45期) 電話(〇八五二) 二二一五三四八

今年度の総会では、島根県の医学史を研究されている梶谷光弘氏(いづも財団事務局次長)の記念講演を予定しています。松江いなさ会第33回総会



松江いなさ会第33回総会

江地区在住の皆様、お誘いあわせの上、ご参加下さい。お待ちしております。

ところで昨年大河ドラマに登場した岸清一は松江の出身です。日本の近代スポーツ界発展に尽力しました。彼の名前を冠した大会や施設が松江にはいくつもあります。島根県庁前には銅像が建立されています。来松の折には是非ご覧ください。

●連絡先 事務局 糸賀耕一
(高校19期) 電話(〇八五二) 二四一五一九四

広島いなさ会

会長 内藤秀夫
(高校14期)

広島いなさ会は昨年七月二八日、北島いなさ会会長、長廻教頭、杉谷先生を迎え開催しました。

北島会長からは、大社の近況として「賑わいを見せる神門通りの変遷」について、長廻教頭からは百二十周年を迎えた中で、近況報告として、県総体三年連続総合優勝や学校の様子と進路の状況等のお話をいただきました。

そして、曾田俊二様(高27期)から「人生六十二年を振り返って」と題しての講演と松井和生様(高19期)から、「大社中学校生徒会支援保存会」の取り組みについて紹介いただきました。また、他支部からの参加や初参加の方もあり、皆様からの近況報告等をいただきながらの和やかな総会となりました。さて、今年の総会は、新型コロナウイルスの終息が見通せない状況の中、残念ながらやむな



曾田俊二様(高27期)「人生62年を振り返って」講演

く開催を中止といたしました。なお、次年度の総会は例年どおり初夏の開催を考えています。皆様にはご自愛いただき総会開催の節には元気なお姿でお会いできますことを楽しみにしております。

何かございましたら事務局までご一報下さい。
●連絡先 事務局 岸 利一
(高校30期) 電話(〇八二) 二二三一五六〇四

斐川いなさ会

会長 山崎文夫
(高校20期)

斐川いなさ会は、令和元年十二月七日(土)華満斐川本店に於いて、来賓に北島建孝会長、学校から長廻崇教頭、杉谷幸夫先生をお迎えし、二十九名の会員に参加いただき、六年ぶりに開催しました。総会の後、斐川西中学校前校長高野正次先生(高29期)を講師に「いまだきの中学生」の演題で講演いただきました。校長としての経験を元にご自身の話に興味深いものでした。講演の後懇親会が

なお、今年の懇親会を、四月十二日に開催準備してきましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止しました。その代わりにHPやLINEを利用して若者(学生)の交流と参加を促す企画を準備しています。

いなさ会は若者に本当に必要か?の疑問に答える本格的取り組みが必要です。

●連絡先 事務局 石川百合子
(高校38期) 電話 〇九〇一 八四八四一七九六三



6年ぶりの斐川いなさ会

会員だより

同窓会五百回

山崎 裕 二氏(高校19期)

私には、毎月楽しみにしている同窓会がある。それは、高校時代の同窓会である。この会は、高校卒業後しばらくして発足したと聞いているから、遅くとも昭和五十(一九七五)年頃までには発足していたことになる。

したがって、これまで開催された回数は、少なく見積っても五百回は下らないはずである。世話人はいるが、規約なし、会長なしの地元在住者による有志の会である。出席メンバーは、かつては十数名だったが、この頃は七、八名である。

私は、松江での勤務が長かったために、この会への出席は、今から十七年前からである。それでもこれまでに二百回程度は出席している。

家族からは、「毎月毎月、同じようなメンバーが集まって、そんなに語り合うことがあるのか」



毎月開催される同窓会。左端は筆者。(令和二年某月撮影)

相撲や地域史、ブドウ栽培などその道に詳しい者もおり、酒を酌み交わしながら、彼らの蘊蓄に耳を傾けることも楽しみの一つである。

今から思えば、私たちが一緒に過ごしたのは、高校二・三年生の二年間ほどである。これまでの人生から見れば、それは人生のほんの一瞬に過ぎない。その時の人間関係が、今なお続いていること自体が驚きである。

私たちのクラスは、男子四十名、女子十五名の変則的な男女編成であった。男子は四十名いたが、当初から、誰もが親密な関係にあったわけではない。それが、どうしてこれほど長く続く人間関係になったのであろうか。

それは人格の形成期に、毎日同じ空間で、同じ時代の空気を吸い、共通の体験を積み重ねることによって、知らず知らずのうちに互いの存在を認め合うようになったからであろう。青春時代の一年は老壮時代の十年に匹敵すると言われるが、まさにその通りである。

古希を過ぎ、本音で語り合う相手も少なくなった。そのような中で、本音を自由闊達に語り合える友がいるという事は、何事にも代えがたい喜びである。ちなみに、「この会のことを「トカゲ会」と呼んでいるが、名称の由来については諸説あり、正答は誰も知らない。

コロナウイルスと文化

藤間 寛氏(高校24期)

先日久しぶりに旧大社高校を通りかかったので校庭に入ってみた。現在は中学校の新校舎が建つが、われわれが通った頃の本造校舎やすり減った石段の記憶がよみがえる。当時一番南側にあったのが講堂で時には武道場に使われ、夏などは広いグラウンドやテニスコートからの風がすがすがしかった思いがある。しかし今はコロナウイルス対応の休校で全く静かであった。時はめぐり七十歳も近くなってきたが、仕事では博物館と美術館の五館で学芸職に就き、うち三館は新設で、今は松江歴史館で郷土の文化に目を向けている。この頃では美術館・博物館で働く職種として学芸員が認知され、展示事業を通して来館者の満足度や好奇心に訴えることが仕事でサービスマンであるとも言われる。収益を第一とする業種ではないものの収支に目を向けなくてはならない。またコレクションも長い年月に紆余曲折をへて出来るもので、こうした施設は一朝一夕に完成するものではない。年に何回利用してももらえないか? 魅力度と広報力、新鮮さが勝負かもしれない?

さて、今回のコロナウイルスは多くの生命を脅かし、最前線の医療従事者の方々の努力には頭が下がる。生産業やサービスマンをはじめ諸事業へのダメージの大きさは周知のとおりで、教育面では学校の休校、博物館や美術館などの公共施設の休館、また芸術文化やスポーツ界においては催しが中止され、会場側はもとよりアーティストや選手にとっては生活がかかっている。そうした中、ドイツでは三月早々に文化大臣が小規模の文化施設とフリーランスのアーティストに対し「文化は良き時代においてのみ享受される贅沢品などではないと認識していただきます。ある一定期間、文化活動をあきらめなければならぬとすれば、それがどれほどの喪失であるかも、われわれは理解し

ています」 「芸術家と文化施設の方々には安心していただきたい。私は、文化・クリエイティブ業界の方々の生活状況や創作環境を十分に考慮し、皆さんを見殺しにするようなことは致しません」と表明し、芸術を解する伝統の深さに注目された。この長期間の自宅勤務や外出禁止は欲求不満を生み、一方では働き方改革が急速に進められた。こうした変化する生活スタイルに対し、各文化施設は社会貢献や発信方法などタイムリーな対応と存在性が問われたのである。この便りが出るころには安全な世の中になっていることを願うばかりである。



感染防御のパネルが設置された受付：松江歴史館

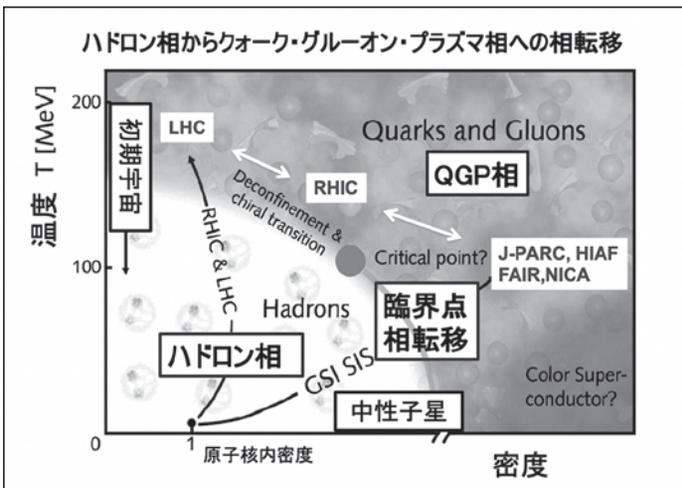
宇宙初期の高温・高密度

クォーク・グルーオン・

プラズマ状態への挑戦

江角 晋 一氏 (高校39期)

昭和六十二年の春に卒業して以来、島根大社の懐かしい街や自然から離れ、原子核物理の基礎科学的な研究を行っています。広島大に入学し、いつか故郷に戻り物理の教員になることを目指していましたが、いつの間にかその研究の面白さ、特に宇宙



クォーク・核物質の相図が、温度軸と密度軸に対して表されており、陽子や中性子から成るハドロン相と、クォーク・グルーオン・プラズマ相の間で、相転移する様子が描かれています。

初期や中性子星内部の高温・高密度クォーク・グルーオン・プラズマ状態に魅せられて、いまだにその研究に挑戦しています。大学院を卒業後、ドイツのハイデルベルグ大学で研究員を四年半行い、二〇〇〇年から筑波大の教員として研究や教育を続けています。

高エネルギー物理実験の規模はあまりにも巨大なため、世界中で数カ所の加速器施設でのみ実験的研究が可能で、スイスの欧州共同原子核研究機構 (CERN研究所) やアメリカのブルックヘブン国立研究所 (BNL研究所) において、国際共同実験グループによって研究を進めています。身の回りの物質は、原子や分子からできてきていることはよく知られています。その原子の中心にあるのが原子核で、さらにその原子核は陽子や中性子から成ること

を学校で学びます。これらの陽子や中性子は「ハドロン」と呼ばれ、「クォーク」や「グルーオン」がその中にあることが分かっています。このクォークやグルーオンは、面白いことに単体としては観測できず、そのハドロンという粒子の袋の中に閉じ込められている素粒子であり、その内部に構造があるかどうかは、まだ分かっていません。宇宙初期などの高温・高密度の世界では、バラバラに混ざり合ったプラズマ状態になると予測され、これがクォーク・グルーオン・プラズマ状態です。氷や水の状態が変化して水蒸気になるように、ハドロン内のクォークやグルーオンが、混ざり合ったプラズマになる変化を相転移と言います。宇宙初期のビッグバン直後には、まさにこの相転移により陽子や中性子ができ、その後原子や分子、さらに星や銀河ができて現在の宇宙に発展したと考えられます。このような高温・高密度のプラズマ状態を高エネルギー原子核衝突実験により再現して、その相転移の様子を調べています。

大好きなふるさと

里見 香奈氏 (高校62期)



対局中の里見香奈さん

大社高校を卒業して十年経ちました。進学校であった為、最初は生活に慣れるのが結構大変でした。当時は、女流棋士として東京や、大阪での対局があったので、学業と将棋の両立をしなければならず、忙しい日々を過ごしていました。しかしその反面、毎日が充実していたように思います。

当時目標としていたタイトル獲得は記憶に残る嬉しい出来事でした。更に高い目標に向かう大きな原動力になったように思います。

そしてもう一つ、高校に入学して間もない頃、米子市民球場で行われた、プロ野球の広島・

阪神戦にて、始球式をさせていただきました。進学校で強く記憶に残っています。ガチガチに緊張していた私を、多くの先生方が見に来て見守って下さいました。投げ終わった後、プロ野球選手の方に「頑張つてね！」と優しくお声掛けいただいたのは良い思い出です。生まれて初めてトッパスリートの方を間近で見ることができ、自分にとって将棋を頑張る上での大きなモチベーションになりました。いろいろな思いのある高校生活でしたが、周りの方々の支えもあり、将棋の道に精進することができたと感じています。当時から、地元の方々の声援を受けて頑張れることはこの上ない喜びです。



県民栄誉賞受賞

一昨年には、「近畿いなさかい」に出席させていただきました。様々な分野で活躍されている先輩方との交流は、楽しいです。

里見香奈さんは将棋史上初の女流六冠を達成した棋士。今年二月十一日真庭市であった第四十六期女流名人戦五番勝負の第三局に勝ち、女流タイトル最多の十一連覇という大記録を達成されました。これは一九九一年(平成三年)に林葉直子さんが女流王将戦で成し遂げた十連覇の記録を二十九年ぶりに塗り替えたもので、島根県は三月十九日に県民栄誉賞を贈ってその偉業を讃えました。同賞の受賞者は県知事を五期二十年務められた故澄田信義氏以来二人目ということです。

さて、将棋界では新型コロナウイルスの影響により、多くの対局が延期になりました。例年行われておりますタイトル戦も次々に延期になり、今までに例を見ない程の、対局のない日々を過ごしています。しかしながら、この期間を充電期間と捉え、体調管理も考えつつ、良いペースで勉強に励んでいます。

そして、いなさかいの皆様と、またお会いできる日を楽しみに、またふるさと島根を少しでも元気づけられるように、日々精進して参ります。

塩野直道先生顕彰会から寄贈

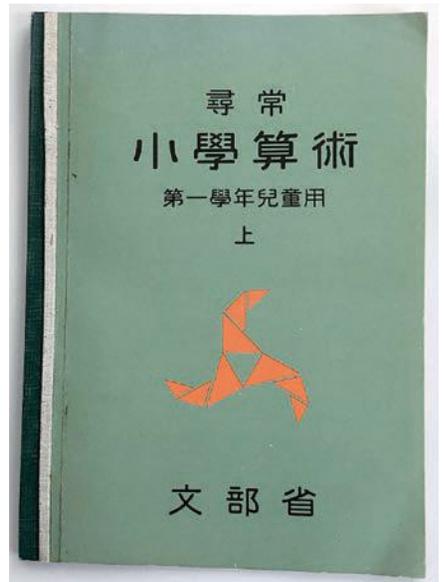
昭和初期に算数の国定教科書の編集に関わった数学者である塩野直道氏(一八九八〜一九六九年)の関連資料約百点を、塩野直道先生顕彰会(会長は今岡登氏。今岡実氏(高校9期)も会員)から寄贈していただきました。【写真1・2】のとおり、卒業生会館の有朋館1階に常設展示いたしましたので、保護者、出雲市民、いなさ会員の皆様も是非お越しいただきご覧ください。



【写真1・2】塩野直道氏関連資料の常設展示(有朋館1階)

塩野直道氏は、一八九八年(明治三十一年)簸川郡園村(出雲市東園町)に生まれ、杵築中学校(大社高等学校)を一九一六年(大正五年)に卒業しました。進学した東京帝国大学(東京大学)を卒業し、旧制松本高等学校(信州大学)の教授をつとめた後、一九二四年(大正十三年)から文部省(文部科学省)図書監修官となり、算数・数学の教科書編集に深く関わりました。

【写真3】は「緑表紙」と呼ばれた『尋常小算術』の教科書で、玉入れやおはじきなどの遊びをテーマにしたイラスト入りの問題があり、子どもが算数に関心を持つよう工夫されたもので国際的に高く評価されました。また、塩野直道氏は、四つ珠そろばんの普及者としても有名です。



【写真3】緑表紙の尋常小算術教科書

二〇一八年(平成三十年)、島根県内の教諭OBら九名が「塩野直道先生顕彰会」を設立され、教科書、著書、家族から提供された肖像写真のほか、塩野直道氏が学んだ出雲市立長浜小学校の児童が描いた紙芝居を基に足跡をまとめたDVDなどを、本校へ寄贈していただきました。【写真4】は塩野直道氏の活躍をまとめたパネルで、『尋常小算術』の教科書などとともに有朋館1階に展示してあります。

大正5年3月に卒業した塩野直道の活躍

塩野直道は、明治31(1898)年、簸川郡園村(出雲市東園町)に生まれ、島根県立杵築中学校(大社高校)へ進学しました。大正11(1922)年、東京帝国大学理学部を卒業し、旧制松本高等学校(信州大学)教授に就任しました。そして、同13(1924)年から文部省図書監修官となり、算数・数学の教科書編集に関わりました。



文部省時代の塩野直道 (1935年・『随筆』藤林館1982より)

年次	年齢	出来事
1898	0	島根県立杵築中学校(大社高校)入学
1916	18	杵築中学校(大社高校)卒業
1916	18	東京帝国大学(東京大学)入学
1922	24	東京帝国大学(東京大学)理学部卒業
1922	24	旧制松本高等学校(信州大学)教授に就任
1924	26	文部省図書監修官に就任
1924	26	『尋常小算術』の教科書編集に関与
1925	27	『算術』の教科書編集に関与
1926	28	『算術』の教科書編集に関与
1927	29	『算術』の教科書編集に関与
1928	30	『算術』の教科書編集に関与
1929	31	『算術』の教科書編集に関与
1930	32	『算術』の教科書編集に関与
1931	33	『算術』の教科書編集に関与
1932	34	『算術』の教科書編集に関与
1933	35	『算術』の教科書編集に関与
1934	36	『算術』の教科書編集に関与
1935	37	『算術』の教科書編集に関与
1936	38	『算術』の教科書編集に関与
1937	39	『算術』の教科書編集に関与
1938	40	『算術』の教科書編集に関与
1939	41	『算術』の教科書編集に関与
1940	42	『算術』の教科書編集に関与
1941	43	『算術』の教科書編集に関与
1942	44	『算術』の教科書編集に関与
1943	45	『算術』の教科書編集に関与
1944	46	『算術』の教科書編集に関与
1945	47	『算術』の教科書編集に関与
1946	48	『算術』の教科書編集に関与
1947	49	『算術』の教科書編集に関与
1948	50	『算術』の教科書編集に関与
1949	51	『算術』の教科書編集に関与
1950	52	『算術』の教科書編集に関与
1951	53	『算術』の教科書編集に関与
1952	54	『算術』の教科書編集に関与
1953	55	『算術』の教科書編集に関与
1954	56	『算術』の教科書編集に関与
1955	57	『算術』の教科書編集に関与
1956	58	『算術』の教科書編集に関与
1957	59	『算術』の教科書編集に関与
1958	60	『算術』の教科書編集に関与
1959	61	『算術』の教科書編集に関与
1960	62	『算術』の教科書編集に関与
1961	63	『算術』の教科書編集に関与
1962	64	『算術』の教科書編集に関与
1963	65	『算術』の教科書編集に関与
1964	66	『算術』の教科書編集に関与
1965	67	『算術』の教科書編集に関与
1966	68	『算術』の教科書編集に関与
1967	69	『算術』の教科書編集に関与
1968	70	『算術』の教科書編集に関与
1969	71	『算術』の教科書編集に関与
1970	72	『算術』の教科書編集に関与



【写真4】塩野直道氏の活躍をまとめたパネル



進路状況

今春の入試において、本校の国公立大学の合格者は現役・既卒生あわせて63名でした。在籍数が例年より30名ほど少ない上に、センター試験の難化、私大の定員厳格化等、厳しい条件下での受験となりましたが、生徒達は最後まで粘り強く努力してくれました。既卒生からは、鳥取大学医学部医学科の合格者が出ました。また、現役生は筑波大学、東京学芸大学、広島大学等、のべ50名の合格を得ました。国公立大学全体の概況としては、昨年同様に島根大学、島根県立大学の合格者が最も多く、近年の地元志向の高まりを反映したものとなりました。

一方、私立大学の入試は、前述した定員厳格化、浪人を避けたい受験生の中堅大への集中等により難化傾向にありましたが、昨年並の合格を得ることができました。最終的には現役卒業生246名中158名、約65%の生徒が四

年制大学に進学しました。短大、専門学校、高看の合格者もほぼ昨年度同様でした。進学先を系統別にみると教育系、人文系、看護系が比較的多く、地域として多かったのは島根県内への進学で、次いで山陽近畿圏となっています。

就職状況は、公務員が警察官、消防、自衛官で、民間就職は全員が県内の事業所でした。就職については、近年高校への求人数が安定していることもあり、ほぼ希望どおりの事業所に就職できています。

これからの生徒達は、新共通テストの実施や新教育課程の下、自己の活動の履歴を残し、その学びの成果をまとめなければなりません。明確な志望理由を持ち、それをさらに深めることや、部活動に限らず校外外の教育活動に積極的に参加することがますます求められます。自分の時間を有意義に活用することが大きな課題となっていくわけです。昨年度も放課後や休日にたくさん生徒が有朋館で学習に励んでいました。これからも生徒のために、有朋館をはじめ、充実した学習環境を整えていきたいと考えています。

1. 進学状況

(合格延べ数・過年度卒業生を含む)

	29年度	30年度	元年度	
大学	国公立	83	79	63
	私立	308	252	243
短大	公立	9	8	9
	私立	12	15	19
高看	28	36	37	
専門・各種(高看を除く)	30	25	31	
合計	470	415	402	

2. 就職状況

	29年度	30年度	元年度
公務員	2	10	5
民間事業所	7	6	8
計	9	16	13